

いわちゃん ポスト

岩井やすのりの県政かわら版

千葉県議会議員



岩井やすのり

プロフィール 1970年生まれ 46歳

早稲田大学大学院 政治学研究科修了
H27年 千葉県議会議員 2期目当選

岩井やすのり 議員事務所

TEL : 0476-36-7799

HP : <http://www.iwai-y.jp> メール : mail@iwai-y.jp

印旛郡栄町安食台 2-26-23(栄町役場前大山ビル 2F)

未完のニュータウン北環状線～長期戦覚悟の交渉期待

元地主の産廃投棄きっかけ、不法占有で複雑化

県道 189 号千葉ニュータウン（NT）北環状線は、国道 464 号との交点となる印西市草深と白井市根を結ぶ一般県道です。国道 464 号のう回路になるとともに、NT 地区住民の生活道路として期待されますが、県の用地取得から 45 年以上経った今も、全線開通のめどは立っていません

問題となっているのは、白井市内の約 450 ヘクタールの未着工区間。そもそもは平成 3 年に死去した元地主が、県企業庁に道路用地として土地を売却しながら、昭和 50 年代に同地に産廃物を不法投棄したことによるものです。平成 3 年に、産廃物の上に別事業者が事務所兼資材置き場を設置し、占有を始めたため、道路事業を進めようにも、「産廃物を撤去しなければならない」、「現地主は投棄に無関係」、「産廃物上に不法占有者がいる」ということになり、問題が複雑化したのです。

2.2 億円移転補償するもなお決着せず

県は、取得した道路用地について、台帳管理に加え、



千葉 NT 北環状線の未着工区間（白井市）

定期的な現地巡視等を実施。県道用地の不法占有を行っていた事業者に対しては、再三にわたり不法占有物件の撤去を求め、一部コンテナ等については事業者により撤去が行われたといいます。

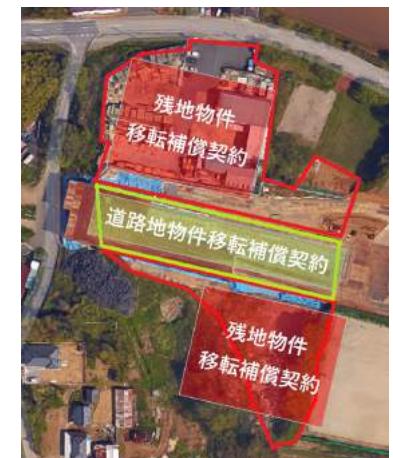
平成 24 年 5 月、千葉 NT 北環状線の

工事開始時においても資材等の残存物があったことから、都市再生機構（UR）は事業者に 2 億 2 千万円の道路地および残地物件移転補償を行いましたが、事はここで終わりません。道路工事が始まれば騒音、振動等が発生するとして、県は同事業者からさらなる補償を求められており、NT 北環状線事業は再開できずにいるのです。

「コスト」増大避けるため慎重交渉を

冒頭に述べたように、千葉 NT 北環状線は印西地区と白井地区を行き来する幹線道路としてばかりでなく、地域住民の生活道路としても大きな期待が寄せられてきました。県の計画決定から 50 年以上が経過しており、一刻も早い開通、供用開始が求められるところですが、交渉を急げば、さらに「コスト」が膨らむことは間違ひありません。

これまでの経緯を振り返るならば、県（UR）にはむしろ当分の開通はありえないくらいの気構えで、じっくり腰を据えて交渉にあたってもらいたいと考えます。

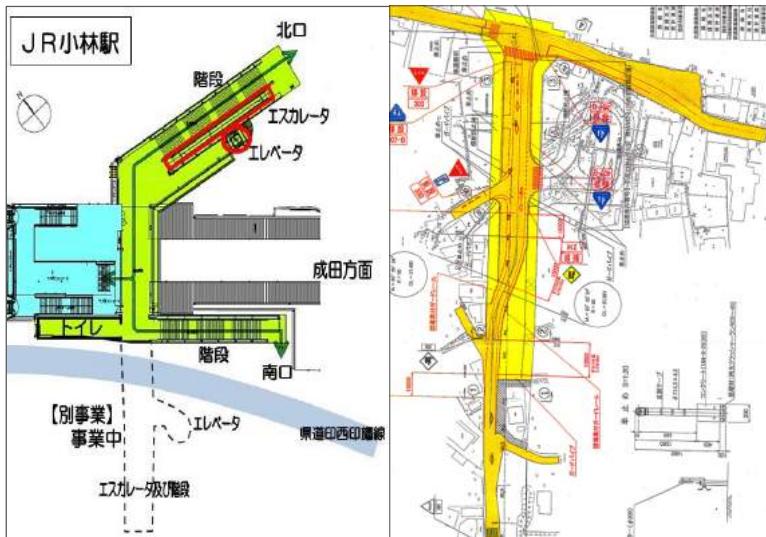


最新
情報

JR 小林駅南口自由通路 4月供用開始見込み

印西市が進めるJR小林駅南口自由通路設置事業。同時に進められる県道印西・印旛線バイパス事業とともに、進捗状況と今後の見通しについてご報告します。

南口駅前広場にあわせ県道バイパス80m先行整備



小林駅自由通路図(左)、県道バイパス先行整備部分計画図(右)

JR小林駅は、平成25年度から進められてきた橋上駅舎工事が一昨年夏に完了し、同9月より、北口エスカレーター、南口本設階段とともに供用開始されています。しかし、県道（旧道）をまたいで設置される南口自由通路（エスカレーター、エレベーター等）については、見た目上は完成しているにもかかわらず、一向に利用が開始されないでいる状況にやきもきする住民の声は少なくありません。

ところで、当地においては、JR小林駅南口から南西方に470mの県道印西印旛線バイパスを整備する計画があります。現在、事業費ベースで約50%、用地取得面積

で約60%の進捗状況と、完成までは長い道のりを残していますが、今回、印西市が南口駅前広場（ロータリー）を設置するにあたり、千葉県側も小林駅南口から80mの区間を先行して整備することとなっています。



用地確保に遅れ 駅前広場完成時期は見通せず

では、「なぜ南口自由通路がいつまで経っても利用できないのか？」についてですが、そもそも自由通路の供用開始は年度明けの今年4月ごろとされており、その点の遅れは生じていないというのが答えになります。ただ、駅前広場設置に必要な用地取得について、市側の努力にもかかわらず、一部関係者との調整に時間がかかっているのも事実で、未だ駅前広場の完成時期は見通せない状況にあります。したがって、市は、小林駅南口自由通路と同時の駅前広場の供用開始を断念し、自由通路乗降口回りのみを整備した上で、年度明けに南口自由通路を供用開始することになっているのです。

そもそもは、JR小林駅南口の目の前に県道（旧道）が走り、朝夕などに自動車と歩行者の接触事故が懸念されてきた経緯があり、橋上駅舎化はなされたものの、南口自由通路と駅前広場の整備がなくては意味がありません。利用者の安全確保のためにも、一刻も早い完成を期待します。

JR小林駅南口自由通路

